



功績賞を受賞して

◀篠原武司・柳沢米吉▶



このたび土木学会功績賞をいただき感謝の念に耐えません。学校を出てから46年間、先輩や同僚の皆様にご指導ご協力をいただき本当にありがたく、この機会に厚く御礼を申し上げます。

私は昭和5年大学を卒業後鉄道省に入り、神戸改良事務所に勤務しました。当時は東海道線および山陽線が神戸市内の地平を走っており、その高架化工事に従事したのです。その後、土木工事の現場の仕事も経験しましたが、昭和19年末戦争の被害が鉄道にも大きく及んできたころ、広島鉄道局施設部総務課長という技術屋らしからぬポストにつき、四国鉄道管理局長、初代管財部長、西部総支配人兼門司鉄道管理局長等、土木を離れた仕事が続く国鉄での最後の職が鉄道技術研究所長でした。

昭和32年、研究所の創立50周年記念講演会で「超特急列車、東京一大阪間3時間への可能性」と題する講演を行い好評を得ました。鉄道はこのように近代化できるという見本を示したといっただいでしょう。そのちょうど10年後、昭和42年本会会長のときに総会における会長講演で「鉄道の現状と将来」と題して全国新幹線網の構想を発表したところ、田中前首相も注目して例の全国新幹線鉄道整備法の制定へと結実しました。

土木技術者らしくなったのは昭和39年3月、日本鉄道建設公団の創立に伴い副総裁になってからで、以来各種の鉄道新線建設に取り組み、21世紀になっても役立つような近代化された鉄道を造ろうと努力しています。青函トンネル工事、大清水トンネル等を含む上越新幹線の建設工事等、大きな仕事に皆様のご支援をいただいて取り組んでいられることは、まことに幸せであると思っています。

●私の履歴●

明治39年4月東京に生まれる。昭和5年東大土木工学科を卒業。ただちに鉄道省に入り、神戸改良事務所勤務、昭和12年8月支那事変のため鉄道第一連隊に召集され3年3か月間戦地勤務、その功により勲五等旭日章ならびに功五級金鶏勲章を受け、後に勲四等瑞宝章を授与される。その後、本省建設局線路課に勤務して建設仕事を担当し、昭和24年広島鉄道局施設部長、昭和25年四国鉄道管理局長、昭和29年本省臨時財産監理部長として不動産事務の処理体形化に従事する。昭和30年10月西部総支配人兼門司鉄道管理局長、昭和32年1月鉄道技術研究所長、昭和36年11月八幡製鉄(株)参与となる。昭和39年3月発足した日本鉄道建設公団に副総裁として就任、昭和45年3月同公団総裁に就任して今日に至る。この間、昭和37年に工学博士の学位を受け、昭和41年から1年間土木学会会長を勤め現在鉄道建設審議会委員、日本トンネル技術協会会長等も勤めている。現住所：〒158/東京都世田谷区奥沢4-11-13。電話(03)720-1012番。

今回、土木学会の功績賞をいただき、私としては恐縮している次第です。思えば昭和2年大学卒業以来50年間はほとんど港湾工事に専念して参ったのです。神戸の築港が初めての思い出であり、中国の塘沽築港は若いときの記念です。スエズ運河への日本業者の進出の成功や台中港の計画作成等を思うとき、自分が土木技術者であったればこそと有難く思っています。これらはみな、諸先輩のご指導と皆様のご協力によるものと、感謝のほかはありません。私は官界の最後の数年間を海上保安庁という所に勤務したのです。海上保安庁でも灯台部とか水路部とかいう部門はほとんど土木の部門といっただい分野で、土木の広さをつくづく考えさせられたのです。また自衛隊の創設にあたって、海上幕僚監部の設置の折にも土木的な物の見方が相当に役立ったと考えています。

官を退いた後に私は航空測量に力を入れ、この分野の戦後の復興に努力しましたが、これは全く土木技術者の携る分野であるにかかわらず、その数の少ないのに驚きました。近年は丸安先生らのご努力が実ってきたようです。私は国際建設技術協会の理事長として約20年間技術援助の仕事をやっていますが、小沢久太郎さんが20年前に着眼した先見の明に敬服しています。ここで考えさせられることは、今後の土木技術者のあり方です。深い専門的の人物の養成はもちろん必要ですが、同時に総合的に物を考える人材の育成が大切だと思われます。特に海外のプロジェクトが今後は数千億円という単位になり、大きな工場設立のためには、住宅、都市計画、交通、輸送等を一括して行わなければならないと考えています。この総合的な計画をなすうる人は、一つのことには深くはいった人の中から出て来ることに気付かねばならないと思います。

●私の履歴●

明治36年群馬県安中市に生まれる。昭和2年東京大学土木工学科を卒業。ただちに内務省神戸土木出張所に勤務、昭和13年中国で塘沽築港を計画、天津の海河工程局技師長、同18年運輸技師となり、港湾局計画課長、第四港湾建設部長、中国海運局長、灯台局長、同26年海上保安庁長官、同28年退官。その後、港湾審議会委員、離島審議会委員、船員労働審議会委員等を勤め、現在、海上交通労働審議会、運輸技術審議会、北海道開発審議会、東京都港湾審議会、東京都計画審議会の各委員を勤める。海外協力事業団の審議会委員、水路協会会長、国際建設技術協会理事長、その他団体理事、会社役員等。現住所：〒168/東京都杉並区永福3丁目49-5。電話(03)321-3387番。